

「シドニー便り 2. 0」(第15回)

～ 裏千家大宗匠のシドニー訪問 ～

7月3日

6月8日から11日にかけて、茶道裏千家第15代家元 千玄室 大宗匠がシドニーを訪問されました。10年前の2013年以来の訪問となります。

本年は、大宗匠による裏千家のオセアニア・ミッションが開始されてから60周年、シドニー協会の創設から50周年にあたる記念の年です。ブリスベン連絡所は創設49周年、メルボルン協会は創設30周年にあたります。茶会当日はブリスベン、メルボルンをはじめオセアニア在住の裏千家の多くの関係者がシドニーに集いました。

振り返れば、私が外務省に入省した1990年、当時は文京区の茗荷谷(みょうがだに)にあった外務省研修所で、大宗匠の講義を拝聴した記憶があります。場所を相模大野に移した現在も、研修所で講義を続けているとのことのお話を伺いました。私の5年先輩も講義を聴かれたということです。少なくとも40年近くにわたり講義を行われ、茶道だけでなく、平和への取組と、人生を歩む心構えを、若い省員に説いていただいています。大宗匠には、外務省参与、日本・国連親善大使、ユネスコ親善大使も務めていただいています。外交の分野で多大な御支援、御協力をいただいていることに感謝申し上げます。



6月8日は、Royal Automobile Club において記念晩餐会が催されました。

その翌日9日は、国立海洋博物館(National Maritime Museum)において、大宗匠による献茶式(「和合の茶会」)、講演、そして業躰の皆さまによる茶道デモンストレーションが行われ、午後にはシドニー、ブリスベン、メルボルンの3協会それぞれによる呈茶が行われました。私も一連の行事に参加しました。



大宗匠は、講演の冒頭に、茶碗を手に取り、茶碗は「丸い」、それは「輪」であり、「和」であり、「平和」に通じるものである、とお話しされました。また、ウクライナを3度訪問したこと、最近キエフの茶道関係者から連絡があり、戦争の中にあっても静かな空間の中で茶道を続けている、この空間だけは平和であり続けている、というメッセージを受け取り感動したこと、ぜひ再び訪問できるようになってほしいし、再訪したいというお気持ちを披露されました。その後も話は尽きず、原稿なしで、1時間半近くの講演でした。

今年の4月に百歳になられたので、多くの参加者が健康の秘訣について関心をお持ちだったと思います。大宗匠は、「姿勢」「構え」と、「緑茶」の二つを答えに挙げていました。私も心に留め、実践するよう心がけた次第です。

講演と行事を通じて、茶道、茶碗を通じた平和への願いと、「一盃からピースフルネスを」を体現していくことへの強い熱意を感じました。その情熱は、30年以上前に私が研修所で講義を受けた時と変わらぬ熱量を持つものであったと思います。

日本文化の普及、各国国民間の相互理解の促進、そして外交分野における様々な貢献に対し、心からの感謝と敬意を表しつつ、ますますの御発展をお祈りしたいと思います。



(以上)